

SDGs 宣言達成状況報告書

私たちは、宣言書に記載した取組目標の達成状況を次のとおり報告し、持続可能なまちづくりに向けて、次のとおり取り組むことを宣言します。

（宣言日・変更日）

3年 1月 27日

事業所・団体等又は関連事業者等としての2030年の（又は中長期的な）あるべき姿			
社会福祉法人として地域に信頼され、無くてはならない存在となり持続的な地域福祉の実現に貢献する。			
事業所・団体等又は関連事業者等としてのねらい、特徴的な活動			
法人の持つ施設と人材を最大限に活用し、福祉サービスの提供と住民や関係機関との連携を図りながら、地域、職員、利用者が幸せになれるような事業運営と支援活動を行っている。			
目標に関連する取組内容			
ゴール	昨年末までの取組目標	取組目標の達成状況	本年末までの取組目標
	一般社団法人及び学生ボランティアと連携した生活困窮家庭児童の居場所づくりと学習支援に関わる職員を5名に増やす。	コロナウイルス感染防止対策を行いながら取り組みを継続したが、関われる職員を5名に増やすことはできなかった。	一般社団法人及び学生ボランティアと連携した生活困窮家庭児童の居場所づくりと学習支援活動を継続し、それらに参加する新たなボランティア、職員を合計で5名増やす。
	一般社団法人と連携し実施する生活困窮家庭児童支援の場で夕食の無償提供を継続する。	コロナ禍の影響で活動場所での食事はできなかったが持ち帰りによる無償提供により継続することができた。	一般社団法人と連携し実施する生活困窮家庭児童支援において、持ち帰り夕食の無償提供としても継続する。
	地域支援課の新設と配置職員の拡充等により、学校、地区社協、民生委員、町内会等との更なる連携強化を図る。	スクールソーシャルワークを受託し学校との連携を強化したが、コロナ禍の影響で他機関との連携の機会は減少してしまった。	学校、地区社協、民生委員、町内会等との更なる連携強化を図る。また北沼上学区自治会連合会と協力し移動支援に関する話し合いを再開する。
	西奈地区児童の学習支援と不登校児童への支援に関わる職員を増やし、支援や連携の増回を図る。	コミュニティソーシャルワーカーが2名となり関わる機会は増えた。緊急事態宣言時もオンラインで活動を継続し支援や連携の回数を増やすことができた。	西奈地区児童の学習支援と不登校児童への支援に関わるボランティア・職員を増やし、支援や連携の増回を図る。また自主夜間教室への参加を継続する。
	照明のLED化と空調設定温度の明示等により、無駄な電力の削減を継続する。	空調設定温度の明示による無駄な電力の削減に取り組んだが、感染対策のための換気等の対策もあり削減することはできなかった。	空調設定温度の明示と周知を引き続き図り、消費電力の2%削減を目指す。
	定年職員の正規継続雇用、採用日から有休付与、グッツ・ジョブ・システム制度、復職する育休取得職員の雇用条件調整を継続。	グッツ・ジョブ・システムの提出枚数が前年度を上回り、出産による退職職員もなく、働きやすい環境づくりやモチベーション維持に効果があったと思われる。	職員の離職率10%以下を目指す。
	外国人留学生の継続的な雇用を進める。障がい者のやりがい創出や地域との交流機会の増加を進める。	コロナ禍により外国人留学生は全員退職した。アケサリ製作販売により障がい者生活介護利用者のやりがいを育み社会との交流を促進できた。	就労に課題を抱える若者の継続的な雇用への支援を進める。障がい者のやりがい創出や地域との交流機会をさらに増やす。
	施設車両活用の無料バス運行と青色防犯パトロール、野菜販売場所の提供、老人会のサポート、認知症カフェの開催を継続。	コロナ禍の影響で無料バス運行の協議が中断となっているが、その他の取り組みは継続して行った。	施設車両活用の無料バス運行と青色防犯パトロール、野菜販売場所の提供、老人会のサポート、認知症カフェの別会場でも開催を継続する。
	不要な電気の節約、裏紙の使用、古紙のリサイクル、事務機器等のリサイクル、ペーパーレスへのIT活用の徹底を図る。	取り組みを継続するとともに、利用者への請求書を再利用可能なバインダー方式に変更し、資源の節約を進めることができた。	不要な電気の節約、裏紙の使用、古紙のリサイクル、事務機器等のリサイクル、ペーパーレスへのIT活用の徹底を継続する。
	職員食堂へウォーターサーバーの設置とマイボトル持参の働きかけの継続。	ウォーターサーバー設置を継続し、職員のマイボトル使用を増やすことができ、紙コップの消費量も減らすことができた。	ウォーターサーバー2台の増設により、さらにマイボトル持参を上げ、紙コップやペットボトルの使用を減らす。
	環境に良い有機肥料での野菜栽培により、職員等の意識向上、環境に優しい新素材による名刺へ順次切り替える。	新素材による名刺へ完全切替が終了し、SDGsの記載で、職員や関係者の周知や意識の向上を図ることができた。	環境に良い有機肥料での野菜栽培、環境に優しい新素材による名刺の使用を継続する。
	送迎車両等へSDGsステッカー貼付、職員へSDGsバッジ配布、自社ホームページにSDGs取り組みを掲載し周知と啓発を図る。	ステッカー、バッジにより周知と意識向上に効果があった。行政や他企業との連携イベントにも参加し、取組みと施設の紹介も実施できた。	送迎車両等へSDGsステッカー貼付、職員へSDGsバッジ配布、自社ホームページでのSDGs取り組み報告等を継続する。